

研修グループ便り

皆さんこんにちは。早いもので今年も残すところ2ヵ月半となってしまいました。

そこで今回は、研修グループの活動を少し紹介いたします。

グループは4月から新しいパートナーの皆さんも加わり一段とパワーアップした活動を展開してまいりました。そこでその活動内容とこれからの活動企画(案)について簡単にご紹介します。

まず、活動内容ですが主体は小学生(一般者も有り)を対象に研修室での水質分析の補助業務および指導(状況に応じて展示室の解説等)です。調べる水は基本的には霞ヶ浦の水、水道水、5000倍希釈牛乳の3種類の他にリクエストのあった水について、臭い、透明度、電気伝導度、CODの4項目を実験も交えて調べますが、顕微鏡によるプランクトン観察も行ってきました。また、少しずつですが硝酸性窒素やリン酸性リンの分析も付加していく計画でいます。これまでの活動を通じて感じたことは、子供たちの貪欲な学習意欲と生き生きとした笑顔が、我々パートナー活動を後押ししてくれることです。嬉しいですね。

さて活動状況ですが4月はほとんどお客様もなく、実質5月からの活動でした。特に夏休み期間中は大盛況でパートナーメンバーもその対応に大忙しでしたが、充実した活動が出来たのではないのでしょうか。また、新規加入のメンバーの皆さんを対象に2回の勉強会も実施し、スキルアップを図ってまいりました。

次に、これからの研修グループの活動企画(案)についてですが・・・

これまでは実験室での作業が主な内容でしたが、それは継続しつつ、少し外に出てのフィールド活動は如何でしょう。活動を通じていろんなことを見たり、聞いたり、調べたり、新たな発見をするのも楽しいと思います。例えば、茨城県の隠れた名水を探索する「名水調査隊」などはどうでしょうか。電気伝導計を片手に各地を訪ね歩き、地元の人のお話を聞いたり、見たり、調べたりして楽しく見聞を広げるのも一考ではないでしょうか。

(尾形)

いろんな水を調べよう風景



プランクトン観察

「見えた!」「わ!すごい。心臓が動いているよ!」あっちこちから子供たちの歓声があがっています。環境センターでは環境学習の一つとして、田中先生の指導で子供たち自身が顕微鏡を操作して霞ヶ浦のプランクトンを観察し、顕微鏡に撮っています。霞ヶ浦では植物プランクトン約100種、

ミカズキモ



ミジンコ



動物プランクトン約20種程度が通常見られるそうですが、子供たちには動きのある動物プランクトンの方が人気があるようです。

確かに、体長1mmに満たないミジンコやワムシ類の心臓が規則正しく動いているのを見ると凄いと感じます。

研修グループの一員として指導補助という形で参加、子供たちと一緒に顕微鏡観察を楽しんでいます。時期や場所で見られるプランクトンが異なり霞ヶ浦にいるプランクトン全部を見るのは無理なようですが、出来れば見たいものです。

皆様も是非一度、水の中の小さな生き物たちをのぞいて

みませんか。湖での食物連鎖や物質循環など自然の営みを考える良い機会になると思います。

(安川)

環境について実践している事

私は環境対策についていくつか実践しているものがありますが、その中でもっとも意識して実践しているのが次の事です。

- ・私は研修グループに所属して主に子供達に水質分析を教えています。そこで子供達に霞ヶ浦が汚れる原因で一番大きいのは何か?(生活排水, CODで約26%)そしてそれにはどうしたらよいか?

- ・家庭ではフライパン、皿等に付着した油や残り物を紙で拭き取る。
- ・米のとぎ汁は植木の肥料とする。
- ・飲み残しの牛乳やスポーツドリンク等はポイ捨てしない、等を理解してもらい又守ってもらえるように説明しています。

私一人がこれを実践するよりは子供達30数人/回に話してその1/3でも実践してもらえたらと思いながら特に意識して教えています。

- 他に私自身が実践していることは①買い物用のマイバックを2枚持っています(忘れない為に車と家に各一枚)。
- ②車は出来るだけ乗らないで歩くか、自転車を利用しています(健康の為のほうが大きいかな?)。
- ③霞ヶ浦クリーン作戦に毎回参加しています(地元で)。

(栗原)

エコドライブ

今年は9月に入っても連日の猛暑。そこで涼を求め日光の霧降高原を通り会津高原へと2泊3日のドライブに出かけてきました。

今回は、この暑さの原因である地球温暖化への抑制に自分なりに寄与できればと、省エネに心がけ、全て一般道路を走ることになりました。そして街道では追いついてきた車には先を譲りエコドライブに徹し、高原風景を眺めながらのんびりとしたドライブを楽しんできました。

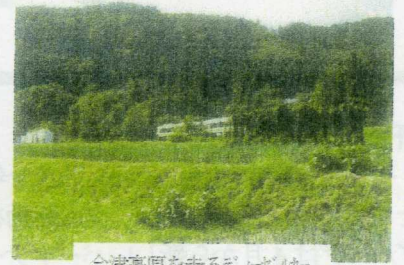
初日午前は大雨で、霧降高原ならぬ雨降高原でしたが、午後からは雨も上がり気温は18～21℃と快適な高原ドライブでした。

翌日は会津鉄道で、尾瀬へのバス発着場になっている「会津高原尾瀬口」から奇石・怪岩が見られる「塔のへつり」まで往復をトコトコとディーゼルカーに乗り、秋の高原を眺め散策もしてきました。列車は2両連結で貸切同様。窓が大きく明るく、黄金色の田んぼと緑の山々も眺められ、「高原列車は行く」の歌が思い出されました。

今回のエコドライブは、ガソリンは勿論、体力も神経も消耗が少なく楽しいドライブでした。いつもはどうしても先を急いでスピードを出してしまいましたが、今回はスピードを控えたマイペースの思い切ったエコドライブが実践できました。

以上、私のささやかなエコ体験です。

(大島)



会津高原を走るディーゼルカー

集落排水のリユース

二年前から農業集落排水維持管理組合の会計を任されている。組合員数は約400。当然のことながらそのほとんど農家で、私のような非農家は十数件にすぎない。

処理場は田んぼに囲まれた地域の南端にある。例えようもない臭気を発する茶褐色の泥水が、透明な“清水”となって排水される様は感動的ですが、放流地点は土地改良区で管理する農業廃水路。ここに貯留された水はポンプアップされて用水路に導かれ、700町歩の田んぼを潤す。見事な水のリユース、リサイクルである。

最近、筑西市内小貝川西岸の米は美味しい、との評価がある。リユース水の効用なのかどうかは私には分からない。

お断りしておくが、農業用水の大半は小貝川と霞ヶ浦からの導水。日糧160㎡に過ぎない処理水は田んぼにとってはあっても無くてもいくらいな量だそうである。

(稲葉)



山百合の里

国道355号線の道路沿いになら、いている「井上・山百合の里」の旗に目が留まり訪れた。行方台地に位置する西蓮寺の近くにあり、昔、参道の中心であった“袖切り坂”を下りていくとその前方の山肌の斜面に山百合の白い花が目に入ってきた。

こんな近くに山百合の群生があるのは初めて知った。しかもこれだけの数の群生は大変珍しいとのこと。昔は全く人の手の入らないうっそうとした薄暗い荒れ放題の山里であったが、前代表の関野さんを中心としたボランティアの皆さんの活動が実を結んで、毎年数千とある見事な山百合の花を咲かせ、優雅な景観やその甘い香りが訪れる人達を魅了させてくれる。

それには里山の整備が大変重要で、その作業が重労働のため山を守り続ける人達の高齢化が悩みの種だそう。

山百合サミットも今年7月に行方市で開催され、市の花にも決まったこれを節目にこれからも頑張ってみ事な大輪の花を毎年咲かせていって欲しいと思う。こうした地道な活動をされているボランティアの皆さんを思うと、我々も勇気をいただける。

(平江)

「カッパの秘薬」の材料は

牛久市の郷土昔話に「カッパの秘薬」という話があります。話のあらすじは、江戸で医者修行を終えた若者が故郷(旧大宮町)に帰る途中、遠くに筑波山に見える牛久市にさしかかった。景色の良さも手伝って一休みすることにしました。眠りからさめ家路をいそごうと立ち上がったところ、そばに奇妙な形をした物(木片と思っただか)が落ちていた。

若者はそれを拾い上げ家路を急ぎました。若者が家に帰ったその夜のことで。若者のところに背の低い老人(カッパの変身)が現れ、今日あなたが牛久沼でひろった物は私の手です。どうぞ返してくださいというのです。若者は「一度とれた手をつなぐ、そんなことができるの？」といぶかったが、老人の懇願とお礼に「秘薬」のつくり方を教えるといわれたので切斷された手を返しました。

何日か過ぎて老人が若者の前に現れ、つながった手を見せるとともにその秘薬の作り方を書いた巻物を置いていった。その後、若者が巻物どおりに秘薬を作り切り傷、すり傷、打ち身等々の治療に使用したところ良く治り、この薬(軟膏)の評判は近郷近在に広まったというストーリーです。この「秘薬」の材料はなにか、考えると夜も眠れなくなりますが、調べてみました。民俗学の大家柳田國男の「嶋民譚集」には「河童草」「イシミカワ」という草が登場し、



イシミカワ

昔から、骨折やすり傷に良く効くと博学紀行・茨城編（福武書店）に紹介されていました。ひよっとするとこのイシミカワこそ秘薬の原材料かも知れませんね。

(浅野)

2007 この夏、富士山を極める - 「富士登山挑戦記」 -

9月1日・2日と私の属する登山の会「徳高倶楽部」設立10周年記念登山として「富士山」に38名のグループの1人として河口湖口五合目から登ってきました。

これまで「富士登山」の機会は何回かあったが、かつてこの山は、多量のゴミの散乱と白い川と擲棄されたトイレの垂れ流しによる環境汚染の深刻化に加えて、最盛期には畳1枚に3人も押し込め“寝返り”も出来ない劣悪な山小屋の実態等から、「富士山は登るものではなく、遠くから眺めるもの」との思いがあり、・・・今回初挑戦となった。

出発前日リーダーから“山小屋の軒にツララが下がっている”との連絡に装備を冬支度に取り替え出発した。登山口の五合目で“高度順応”のため約1時間ぶらぶらした後、登山開始。六合目までは樹間の緩斜面の道を進み、ここからは砂利道をジグザグに登る。七合目の山小屋で高度順応を兼ねて30分の休憩。再び溶岩の固まった岩場や岩礫、急斜面のジグザグ道を休み休み登ること3時間、今日の宿舎、本八合目（TP3,400m）の山小屋に着いた。夕食は定番のパック化されたカレーライス。寝床は1間の柱間に枕が4つ（1人分の幅は約40cm：これでも今年5月山小屋の協定により改善された）。

翌朝は御来光を仰ぐため山小屋の東通路に整列、5時15分雲の間から日の出、厳かな御来光に歓声とバンザイ三唱。山小屋にザックを預け最後の登りに、1時間弱で頂上に到着。ここから日本最高地点の剣が峰（TP3,776m）に向けて“お鉢回り”に、約40分のアップダウン歩行で到着。しかし剣が峰

の標識までは長蛇の列、やっと順番が来て三角点（三等）にタッチ、登頂者全員で記念写真を撮って、押し出されるように下山口に向けて残りのお鉢回りに、9時下山路へ。途中山小屋でザックを受取り、ここからはジグザグの下山専用路（ブルトナーザ道路）を一気にかけて下ります。途中“馬や”や“馬車や”に誘われたが、多分膝ががくがくで歩行がふらふらついていたのかもしれませんが。正午、河口湖口登山口に無事下山、「富士登山」を終了した。

お陰さまで心配した高山病の兆候もなく、古希を過ぎてからの初挑戦に、お天気も加勢してくれ（前日までの寒気も寒冷前線の北上により緩み）、同行したグループの皆さんの心遣いを、全身に感じながら、至福で感慨深い“富士登山”でした。

ご承知の通り富士山は、今年6月ユネスコの「世界文化遺産暫定リスト」に登載され“世界遺産”登録に向けて1歩前進した。課題であった山小屋等のトイレも今は全てパイオトイレなどの環境配慮型トイレに替った（利用料1回100～200円）し、ゴミ問題も登山者のマナー向上と環境保全NPO等の「ゴミ拾い登山」などでほとんどゴミは見られない。是非とも、この世に二つとない日本人の心の山、日本のシンボルである「世界に誇る富士山」を大切にしたいと願うものである。

(有吉)



香 澄 俳 壇

黄金刈る音も軽やかコンバイン

湖を渡る秋風穂を揺らす

顕微鏡覗く子供ら眼が光る

アクリルのタワシ指編みポケ防止







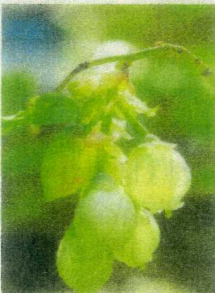


皿洗いアクリルタワシでピーカピカ

(以上大島作)

枯山水台風去ってピオトープ

温暖化日本はいつか熱帯域

(以上栗原作)

		
潮来花火大会 撮影者：平江	潮来花火大会 撮影者：平江	あぜ道に咲く彼岸花 撮影者：大島
		
百日紅とハスの花 撮影者：尾形	フジバカマ 撮影者：有吉	潮音寺万燈会 撮影者：平江
		
ブルーベリーの花 撮影者：尾形	アゲハチョウと彼岸花 撮影者：大島	白い彼岸花 撮影者：有吉

『パートナー香澄』原稿募集

『パートナー香澄』の原稿を募集しています。特にテーマは設けません。パートナーご自身のプロフィールとセンターでの活動体験記や身の回りの話題など何でも結構です。写真の添付も可です。

次号は1月末発行予定で、原稿締め切りは12月20日です。
パートナー室のパートナー香澄メールボックスにお入れ下さい。

編集委員

尾形 孝彦
浅野 明宏
有吉 潔
大島 寿夫
栗原 知彦
平江 俊之
安川 敏行
稲葉 寛